

環境先端県を目指して

～一人ひとりが持続可能な地域づくりに取り組む社会の実現に向けて～

1 はじめに

今、私たちは、都市・生活型公害や廃棄物による環境負荷の増大から、まったなしの状況にある地球温暖化を始め、黄砂や酸性雨、漂着ごみなど国境を越えて影響を及ぼす地球規模の問題まで広範囲に及ぶ環境問題に直面しています。当然、富山県もその例外ではありませんが、本県では、産業公害を克服してきた経験とその中で培われた県民の高い環境意識のもと、数々の環境問題に果敢に取り組んでいます。

この特集では、環境先端県を目指して、富山県が県民の皆さんと力を合わせて取り組んでいる施策を紹介します。

2 県民総参加によるエコライフ推進

地球温暖化防止など地球環境の保全のためには、今の生活スタイルを環境にやさしいエコライフスタイルに変えていくことが必要です。

レジ袋を断り、マイバッグを使うことは数あるエコライフの取組みの中でも、「目に見える」行動です。レジ袋の削減は生活スタイルを見直すきっかけであり、他のエコライフの取組みにもつながっていきます。

(1) レジ袋無料配布の取止め

富山県では、20年4月から全国で初めて県内全域で主要スーパーマーケットなどのレジ袋の無料配布の取止め(28社208店舗で開始)に踏み切りました。この取組みは、多くの県民のご理解とご支持を得ており、マイバッグ持参率は、20年度では92%、21年度では94%と高い水準を維持しています。

また、無料配布しているスーパーや他業種にも参加を働きかけてきた結果、20年11月からはドラッグストア、21年6月からはホームセンターが加わり、実施店舗は着実に拡大しています。(22年6月時点で48社433店舗)

こうした富山県の取組みは全国的にも注目されており、本県に続き、山梨県や沖縄県など12県で開始されるなど、取組みの輪が全国に広がっています。さらに、21年11月には、本県の先進的な取組みを



レジ袋無料配布取止めの呼びかけ



ノーレジ袋推進全国フォーラム in TOYAMA

全国に向けて発信し、レジ袋削減の取組みの輪を広げるため、「ノーレジ袋推進全国フォーラム inTOYAMA」を環境省と共同で開催しました。

(2) 家庭での省エネ・3Rの推進

省エネ設備導入の支援やエコライフの取組みのコンテストの開催、普及啓発などを通じて、家庭における温室効果ガス排出の削減やごみ減量化を推進しています。

① 家庭用省エネ設備の導入補助

高効率給湯器やLED照明などの家庭用の省エネ設備を複合的に導入する場合に、その導入費用の一部を補助しました。今後、省エネ設備の導入によるエネルギー消費量やCO₂排出量の削減効果等を普及啓発していくことにしています。

② エコ“ショッピング&クッキング”、ごみ減量達人コンテストの開催

マイバッグでの買い物、ごみの排出抑制や省エネに結びつく食材の選び方や調理の仕方を楽しみながら学ぶコンテストや通常の生活でのごみ排出量と、ごみ削減の工夫をした期間の排出量を比較して取組み効果を競うコンテストを開催し、優れた取組みについては、そのノウハウを普及啓発することになっています。



ごみ減量達人コンテスト表彰式

(3) 交通部門での取組みの推進

① エコドライブの推進～エコドライブ宣言者数 10万人達成～

誰でも簡単に、すぐに行うことができるエコドライブは、環境にも、家計にもやさしく、安全運転にもつながります。

エコドライブとやま推進協議会では、エコドライブの積極的な取組みを推進するため「とやまエコドライブ宣言」の宣言者を募集しており、21年9月には当初の目標の7万人を達成し、22年10月には新たな目標の10万人を達成しました。

10万人がエコドライブを実践した場合の二酸化炭素削減量は年間約2万9千トン（家庭用エアコン8万3千台分の二酸化炭素排出量に相当）、また、乗用車1台当たりのガソリン代は年間約2万円が節約できると見込まれます。

② 電気自動車急速充電設備の整備

県民が航続距離の不安なく電気自動車を利用できる環境を整えるため、市町村による電気自動車急速充電設備の設置事業を支援しています。県内の急速充電設備は県庁、富山市環境センター、高岡市役所に設置されており、誰でも無料で利用できます。また、県内の自動車販売店などにも充電設備が設置されています。



エコドライブ宣言者10万人達成セレモニー



電気自動車急速充電ステーション（県庁）

(4) 環境教育の推進

幼少時からの環境教育を推進するための環境整備として、幼児向け環境学習ツールの作成や、自然環境の大切さや新エネルギー技術を学ぶ場となる「ソーラービオトープ」の保育園等への設置を支援しています。

また、中高生の環境に関する実践的な知識・技術レベルの向上や環境学習意欲の高揚を図るため、科学部等による環境に関する調査研究を募集、コンテストを開催し、環境フェアで表彰しました。



園児が参加するソーラービオトープ整備

3 自然環境の保全と森林吸収源対策

(1) 生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) と連携した取組み

「生物多様性」の保全への理解を深めるため、COP10パートナーシップ事業として、富山県内で身近に見られる動植物を取り上げながら、地球上の生物が互いにつながり、支えあいながら生きていることを考えるシンポジウムを開催しました。(22年9月)

また、COP10イベントとして開催された「世界自然・野生生物映像祭 in 名古屋」では、映像を通して地球環境保護や自然との共生の大切さについて広く世界に向け発信されました。

さらに、COP10にあわせて名古屋市で開催された「生物多様性交流フェア」(22年10月)にブース出展し、富山県の自然・生物多様性や立山における生物多様性保全の取組み等を国内外に紹介しました。



世界自然・野生生物映像祭 in 名古屋

(2) 県民全体で支える森づくり

平成19年4月から導入した「水と緑の森づくり税」を活用して、明るい里山づくりによるクマなどの野生動物との棲み分けや、風雪被害林や手入れの遅れた過密人工林を対象にスギと広葉樹の混交林への誘導など、地域ニーズを反映した多様な森づくりを推進しています。また、間伐等の森林整備を進めることにより、森林による二酸化炭素の吸収量の確保に努めています。



地域住民との協働による里山林の整備

4 新エネルギーの導入促進と県の率先行動

(1) 小水力発電の導入と太陽光発電システム導入支援

仁右衛門用水発電所の建設（立山町、21年12月竣工）をはじめ、新たに庄発電所（仮称）（砺波市）や山田新田地区（南砺市）の小水力発電所の建設に着手するなど、27年度までに4～5箇所を新たに建設することとしています。また、産学官連携による小水力発電技術開発の支援などを通じて、小水力発電の導入促進を図ります。

20年度から、国と連携して住宅用太陽光発電システムの導入に補助しており、21年度は、879件の補助を実施しました。22年度も補助を継続し、さらに太陽光発電の導入を促進することとしています。



仁右衛門用水発電所 竣工式

(2) 県の率先行動

庁舎等の省エネ改修（LED照明の導入、庁内LANサーバー等を省エネ型に更新）や中央病院のESCO事業導入、太閤山ランドの水上式太陽光発電システム導入など、県有施設の省エネ・グリーン化を推進しています。

また、公用車の低公害車化・小型車化（年50台、21～24年度で200台更新）や電気自動車の導入（21年度3台、22年度2台）を推進するとともに、電気自動車の普及促進のため、県庁にシースルー型太陽光発電システムを備えた急速充電ステーションを整備しました。



水上式太陽光発電システム（太閤山ランド）

5 国際環境協力の推進

(1) 国連環境計画（UNEP）が推進する北西太平洋地域海行動計画（NOWPAP）の活動支援

財環日本海環境協力センター（NPEC）は、日本におけるNOWPAPの事業活動の拠点である地域活動センター（RAC）に指定されています。NPECでは、中国、韓国及びロシアとともに、環日本海地域の海洋環境保全のため、赤潮など有害藻類の増殖対策、人工衛星を活用した海洋環境モニタリング技術の開発、海洋ごみ調査等に取り組んでおり、富山県は、この活動を支援しています。

(2) 環日本海環境協力センター（NPEC）における取組み

NPECでは、平成8年度から海洋ごみ調査を実施しており、この調査手法がNOWPAPの標準手法に採用されたほか、調査結果は海岸漂着物処理推進法の策定に貢献しています。その他、日中韓露蒙の自治体など地域との連携協力を図りつつ、「北東アジア地域体験プ

プログラム」や「黄砂を対象とした広域的モニタリング体制の構築」などの産学官連携による事業を実施しています。

21年度からは、生物多様性を指標とした新たな海洋環境評価手法の開発に着手するとともに、22年10月には、富山県や国際的な生物多様性の取組みを県民に紹介する「環日本海生物多様性フォーラム」を開催したほか、「生物多様性交流フェア」（名古屋市）でのブース展示やCOP10サイドイベントにおいて富山湾における海洋生物多様性に関する取組みを国内外にPRしました。



青少年が環境保全活動に参加（中国・遼寧省）



環日本海生物多様性フォーラム

6 おわりに

地球温暖化は確実に進行し、黄砂や酸性雨、漂着ごみ、地球上の多数の生物種の絶滅の危機など、地球規模の環境問題も顕在化してきており、私たちの暮らしを脅かそうとしています。これらの対策には、世界の国や地域が力を合わせて、環境保全に向けた実効性のある取組みを進めていくことが必要です。

富山県は、これからも、県民の皆さんと力を合わせて、一人ひとりが地球環境問題を自分の問題として捉え、ライフスタイルや事業活動のあり方を見直し、省資源や省エネルギー活動など持続可能な地域づくりに果敢に取り組む社会～「環境先端県」～の実現を目指して取り組んでまいります。

環境月間ポスター 富山県知事賞 (最優秀賞)

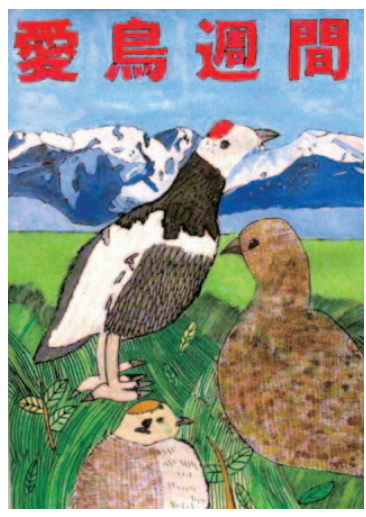


小学生の部 立山町立立山北部小学校 6年 杉本夕城さん



中学生の部 砺波市立庄西中学校 3年 大澤美伶さん

愛鳥に関するポスター 富山県知事賞



小学生の部 氷見市立比美乃江小学校 5年 夷智輝さん

中学生の部

富山市立速星中学校 2年 池田茉淋さん



高校生の部

富山第一高等学校 3年 竹森芽以さん